

平成23年7月28日

日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想

第1四半期は売上高1,085億70百万円、経常利益78億24百万円。

[平成24年3月期第1四半期連結決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）の平成24年3月期第1四半期につきましては、3月11日に発生した東日本大震災の影響により製造業全般で生産活動が低下し、また、自粛ムードの広がりから個人消費が低迷するなど厳しい環境でしたが、主要食糧である小麦粉及び各種製品の安定供給に最大限の努力を払うと共に、製粉事業においてお客様との更なる関係強化を図るなど販売促進に努めました。一方、食品事業などにおいて、引き続き生産、物流各方面においてコストダウンに取り組みました。

そのような中、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均18%引き上げられたことを受け、業務用小麦粉の価格改定を実施いたしました。また、加工食品に関しましても、7月1日から価格改定を実施することを発表いたしました。

この結果、第1四半期の業績は、製粉事業及び食品事業において出荷が好調に推移し、売上高は1,085億70百万円（前年同期比102.6%）となりました。利益面では、製粉事業におけるふすま価格の低迷や拡販施策費用の投入等により、営業利益は67億91百万円（前年同期比93.8%）、経常利益は78億24百万円（前年同期比95.6%）、また、昨年オリエンタル酵母工業㈱及び㈱NBCメッシュテックを100%子会社とした影響により四半期純利益は45億52百万円（前年同期比103.8%）となりました。

[平成24年3月期通期連結業績予想]

わが国の経済は、全国的な電力不足や原燃料価格の高騰など、多くの課題に直面しております。また、引き続き雇用情勢は厳しい見込みで、景気の先行きも不透明であることから、消費者の低価格・節約志向が継続し、個人消費の低迷が予想されるなど、当社グループを取巻く環境も不透明な状況が継続するものと思われます。このような環境におきましても、当社は国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、各事業において安全な製品を供給するという使命を果たすと共に、グループの更なる成長を実現するため、国内においてシェアアップに注力し、コスト競争力を高める施策を推進します。また、併せて海外事業展開のスピードアップを図ってまいります。

以上の結果、当年度の業績見通しにつきましては、当初の予想を据え置き、売上高4,474億円（前年同期比105.5%）、営業利益は246億円（前年同期比97.1%）、経常利益は270億円（前年同期比97.0%）、当期純利益は151億円（前年同期比106.4%）としております。

以 上